

■部会名：安全・安心部会

■部会長（有識者委員）：佐々木 貴子 委員

■市民委員：石栗 和典 委員、梶井 正夫 委員、高橋 美香 委員、中村 紘子 委員、  
山崎 悟 委員

■意見の概要

**[今回配布資料に関する意見：高砂地下歩道について]**

**◇ 高砂地下歩道整備概要（事務局説明）**

地下歩道の整備は北海道で行っており、平成23年10月に着工し、平成25年3月に完成する予定。地下通路全体に照明を設置して明るくするとともに、ロードヒーティングで凍結を防止し、防犯カメラと防犯ブザーを設置する。整備に至った経緯としては、当初、6丁目踏切閉鎖に伴ってこの地下歩道を整備する予定はなかったが、平成16年1月および4月の市民説明会における地域住民からの強い要望やご意見、江別高校を対象としたアンケート調査の結果などを踏まえ、平成16年8月の説明会の段階で整備する方針が示された。こうしたことから、地下歩道は地元の意向を踏まえて整備することとなったものであり、防犯対策もしっかりとられているものである。

- これだけ距離の長い地下歩道だと、どんなに明るい構造といっても夜は歩道の交通量が減るにもかかわらず煌々と電気をつけなければならないことから、非常に効率が悪いのではないか。親の立場としては子どもに夜ここを通らせたいと思わない。
- 防犯ブザーが設置されるといっても、実際にブザーを押してすぐに、被害に遭う前に警備会社が来れるとは限らないのでは。
- 悪事を考える人間は、防犯設備の裏を考えて行動するわけだから、事件が起こってからこの道が危ないということになって、せっかくお金をかけたのに使われなくなっては、市民として納得できない。
- 自転車に乗ったまま通れるのであれば、交通安全対策も必要。ただ地元の要望があったからつくるのではなく、地下歩道をつくった後にどのように防犯対策や安全対策をしていくかきちんと計画を考えておくべき。
- 夜間は通れなくしてはどうか。夜は防犯上危険かもしれない地下通路を通らせるより、江別高校生等の交通量が減るので駅の跨線橋を使ってもらおうということで説明がつくのでは。
- 踏切閉鎖や地下歩道の告知が行き届いていない。
- 出来上がってからの安全面をどう確保していくかをしっかり考えてほしい。
- 市民自治意識を高めるために、何か事業をする際の市民と行政とのやり取りや説明会の持ち方とか情報提供の仕方を工夫する必要がある。市民側もそういうことに対して行政任せではなく、自分たちのまちとして見ていく市民意識を高めていく必要がある。安

全・安心というのは市民も一緒になってつくっていかなくてはいけないものである、ということ根底に置きながら、どのように行政と一緒にまちづくりをしていくかを考えていくことが大事。

- 市民説明会では大人だけでなく、小中高校生といった子どもたちにも説明会をしてほしい。
- 地下歩道の防犯・安全確保も行政任せにせず、市民も目を光らせて自分たちが通る道路として危険な場所にならないようにしていくべき。

### [マトリックス作業中の意見]

- 備蓄の充実と耐震化は提言として出したい。
- 旅行者など市外から来ている人への避難誘導の掲示の整備が必要。
- 災害時要援護者の支援の制度もすでにあるようだが、実際に制度が機能するために制度を必要としている人たちへ情報が必要。
- 災害時要援護者がどこにどれだけいるかを把握した上で、どこにどのように避難させるかというところまで今後考えていってもらいたい。
- 危機対策・防災担当を組織強化した方がよい。市民対象の防災意識を向上させるための課をつくるとか、活動を実践できる組織にしてほしい。
- 防災に関しては行政にできることにも限界があるので、自治会等の組織を活用すべきで、それによってコミュニティも活性化していく。
- 耐震化だけでなく、避難所のバリアフリー化も大事。また、使える避難所になっているかどうかを住民が点検していくような制度があるとよい。
- 市民の防災意識や行政への参画意識を向上させていく取組みを提言の中に入れてほしい。
- 部会としては、マップ作りに合わせた耐震化や備蓄、ソフトの部分での職員の充実や民生委員の指導、住民の意識づくりを徹底するという、さらに市民にわかるような丁寧な情報提供のあり方を考えるべきではないか、ということ提言したい。
- これから自動車離れやエコの観点から自転車が増えてくると思うので、大麻で整備された歩行者と自転車が分離した道路を、江別全域でモデル地区として整備できればよいと思うが、全域で整備するのは難しい面もあるため、自転車の乗り方の指導も必要。江別として自転車と歩行者の住み分けの考え方を打ち出す時期にきている。
- 自転車が走ってよい歩道なのかどうか分かる看板があるとよい。
- 災害のことはたくさん議論したが、防犯の話題がまだ足りないのでは。

### [その他]

- 市民会議は提言までとのことだが、計画をつくっても予算の都合などでできないこともあるので、方向修正なども必要になることを考えると、計画の節目だけに市民会議を設置するのではなく、進行中の計画の監視・進行管理を行うためにも人を替えながら継続的に続けていくべきではないか。市と連携して計画を進めながら時代に合わせて中身

も変えていく、ということが必要ではないか。

○何か事業をする際に市全体・各家庭にアンケート用紙を配るなどして、すべての市民に同じ情報を提供すると良いのでは。アンケートに限らず全市民に情報提供しながら意向を聞ける方法を市で考えてほしい。